

平成24年度

医薬品包装セミナー

医薬品包装に求められる機能と安全性

日時

平成25年3月22日(金)

会場

(公社)日本薬学会 長井記念ホール

主催

公益社団法人日本包装技術協会

プログラム Program

時間	講演内容	講師
10:00 ▼ 11:10	<p>◆「医薬品の個装ケースやPTPシート等のCUD化について」</p> <p>医薬品の個装ケースやPTPシートは内容物を保護するためだけでなく、医薬品の情報媒体としての重要な役割を担っている。特に使用されている色は、調剤業務において薬剤識別や情報収集に利用されているにもかかわらず、薬剤師の調剤過誤や患者の誤飲等の事故防止に有効に機能しているとは言えない。色覚異常者にとっても色覚正常者にとっても区別が付き誘目性の高い色を使用することが求められている。医薬品業界はこのCUDの概念を取り入れることについては、むしろ遅れてしまった。そこで色覚に影響を及ぼす因子を探り、個装ケースやPTPシート等のCUD化を進めることの重要性について説明する。</p>	<p>東京理科大学 薬学部 教授 社)東京都薬剤師会 副会長 (株)ファーマミック 代表取締役 上村 直樹 氏</p> <p>コーディネーター 大日本印刷(株) 包装事業部 ライフサイエンス市場開拓プロジェクトチーム Mチーム 岩村 泰造 氏 全薬工業(株) 一般用薬品開発本部 開発部 包装企画課 係長 満呂木 太郎 氏</p>
11:20 ▼ 12:30	<p>◆「医薬品包装に関する難しさ」</p> <p>医薬品の包装や印字等には様々な創意工夫がなされている。しかし、実際に使用する患者の状況は様々であることから、創意工夫された事が全ての患者の満足を得られる内容であるとは限らない。例えば湿布剤の開封口についているチャックは使用中の湿布剤が保存中に乾燥しないように工夫されたものと思うが、湿布剤を良く使用する関節リウマチの患者では、そのチャックがあるために開封が出来なくなる。点眼薬の安全キャップなども同様である。また高齢化に伴い、脳卒中後の片麻痺により半身が動かない患者も増えている。そのために薬が開封出来なかったり、時間がかかるために薬を服用しなくなり、それによって再発の可能性が高まる症例も少なくない。障害を有する患者の服薬状況のビデオをご覧ください、より良い包装形態の参考にさせていただければ幸いです。また、医薬品の場合は価格が薬価で決まっており、一般製品のようにかかる経費を品代に計上することが出来ない。求める付加価値と価格や利益との関係について皆様と共に考えたい。</p>	<p>昭和大学 薬学部 薬物療法学講座薬剤学部門 准教授 倉田なおみ 氏</p> <p>コーディネーター (株)カナエ 東京支店 営業一部 部長 小濱 博信 氏 ゼリア新薬工業(株) 生産技術部 課長 小俣 康司 氏</p>
13:30 ▼ 14:40	<p>◆「世界における医薬品データ認証システムの仕組み —バーコード表示だけではない—」</p> <p>世界のヘルスケア業界での注目点は、先進国の規制当局が医薬品に対して製品識別の標準化、バーコード表示、データベース登録、追跡管理の義務化を推進していることである。さらに規制当局はデータベースセンターを設立して、医薬品包装の二次元シンボルで表示された「シリアル番号」によって卸売業、調剤薬局、病院における「製品データ認証」の仕組みを構築しつつある。</p> <p>医薬品は世界各地の工場で製造され、世界規模で使用されるグローバルな商品である。一国単位の個別の法規制はメーカーから見れば製造や流通や販売を分断させ、卸売業の流通および病院での使用を混乱させてしまうことになり、社会全体では不経済である。このため国を超えた世界共通の標準化された製品表示ルールが求められる状況にある。規制当局側も医療事故の削減、不正な保険償還請求の防止、偽造品の排除、製品回収、代替品適応等の社会的要請に対応するため、製品識別の標準化、バーコード表示、データベース登録、追加管理の実施、そして製品データ認証の規制化を進めている状況にある。</p>	<p>一般財団法人 流通システム開発センター 研究開発部・国際部 特別研究員 黒澤 康雄 氏</p> <p>コーディネーター 中外製薬(株) 製薬本部 生産工学研究部 副部長 山東 義明 氏 岡田紙業(株) 本社営業部 営業第2課 課長 堤 正一 氏</p>
14:50 ▼ 16:00	<p>◆「事例から考える医薬品安全管理とシステムの活用」</p> <p>2007年4月から施行された改正医療法により、全ての医療機関に「医薬品安全管理責任者」の配置が義務付けられ、医薬品の安全確保に重点を置いた取り組みが期待されている。このような行政的によるアプローチも後押しとなり、医薬品に纏わる事故を防止するための数々の手法が提言され確立されつつあるが、事件や事故は未だ報道され続けており、十分な効果がでていない現状がある。</p> <p>そこで今回の本講演では、事例を交えながら、医薬品を取り扱う医療従事者が直面している医薬品安全管理に関する悩みを整理して、臨床現場が望む医療安全を念頭においた新しい包装技術の開発に役立てていただきたい。また、医療現場で広まりつつあるシステムを活用した安全確保に関する取組みについて、「医療用医薬品のバーコードの利活用」と調剤記録を画像データとして残す「調剤レコーダー」を代表例として紹介する。</p>	<p>国際医療福祉大学熱海病院 薬剤部 係長 鈴木 高弘 氏</p> <p>コーディネーター 藤森工業(株) 研究所 グループリーダー 鈴木 豊明 氏 第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装研究グループ長 片山 通博 氏</p>

講師のご紹介

上村 直樹 氏

東京理科大学 薬学部 教授
 (社)東京都薬剤師会 副会長
 (株)ファーマミック 代表取締役

【ご略歴】
 東京理科大学 薬学部 製薬学科卒業
 昭和58年 富士見台調剤薬局を開設
 (現在の株ファーマミック)
 現在のその他の役職…
 東京理科大学 薬学部教授
 (社)東京都薬剤師会 副会長
 (社)日本薬剤師会 生涯学習委員会 委員長
 薬剤師(薬学博士)

倉田なおみ 氏

昭和大学 薬学部 薬物療法学講座
 薬剤学部門 准教授

【ご略歴】
 昭和大学 薬学部 卒業
 1976年3月 昭和大学病院 薬剤部 入部
 1976年4月 昭和大学 藤が丘リハビリテーション病院 薬局長
 1996年5月 昭和大学 薬学部 薬学教育推進センター
 2006年1月 実務実習推進室 助教授
 2009年6月 昭和大学 薬学部 薬剤学教室 准教授
 医学博士
 日本静脈経腸栄養学会評議員、
 PEGドクターネットワーク理事、
 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会評議員、
 日本社会薬学会幹事、
 日本医療薬学会 認定試験問題小委員会委員、
 日本POS医療学会評議員、
 日本病院薬剤師会 学術第8小委員会委員長、
 簡易懸濁法研究会代表 等
 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師、
 日本大学薬学部非常勤講師

黒澤 康雄 氏

一般財団法人
 流通システム開発センター
 研究開発部・国際部 特別研究員

【ご略歴】
 流通システム開発センターは、バーコード、電子商
 取引等の国際標準化組織である。GS1(ジーエス
 ワン:世界加盟110ヶ国)に加盟し、国内の医薬品
 および医療機器業界のシステム化、標準化を推進
 している公益法人である。厚生労働省の「医療用医
 薬品のバーコード表示通知」では、技術仕様につい
 て厚生労働省、日本製薬団体連合会、日本製薬工
 業協会と共にとりまとめ作業に協力。米、欧州連
 合、世界各国の規制当局による医療用医薬品に対
 する規制及び運用細則について、現在継続調査中。

鈴木 高弘 氏

国際医療福祉大学熱海病院 薬剤部 係長
 国際医療福祉大学 薬学部 教員

【ご略歴】
 1998年3月 東京薬科大学 薬学部 衛生薬学科卒業
 1998年4月 ライオン(株) 研究開発本部 薬品研究所 入社
 (OTC医薬品、化粧品、雑貨の研究開発に従事)
 2002年6月 ライオン(株) 研究開発本部 薬品研究所 退社
 2002年7月 国際医療福祉大学熱海病院薬剤部へ入職
 2003年4月 国際医療福祉大学大学院薬学部
 主任薬剤師 昇格
 2004年4月 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所
 臨床試験研究分野 入学
 2006年3月 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所
 臨床試験研究分野 修了
 2007年4月 国際医療福祉大学 薬学部 教員 兼務
 2009年4月 国際医療福祉大学熱海病院薬剤部 係長 昇格
 現在に至る
 日本病院薬剤師会 情報システム特別委員会 委員
 静岡県病院薬剤師会 理事、東部副支部長

開催要領

日 時:平成25年3月22日(金) 10:00 ~ 16:00
 会 場:(公社)日本薬学会 長井記念ホール
 東京都渋谷区渋谷2-12-15 TEL. 03(3406)3326
 参加費:会員19,950円(消費税5%、テキスト代含む)
 *同時に3名以上でお申込みの場合には割引価格として1名16,800円
 一般30,450円(消費税5%、テキスト代含む)
 定 員:100名

お申し込み方法

- 本誌申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申し込み下さい。
 協会HPからのお申し込みも出来ます。
 協会HP:<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。申込みされた方が
 ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。
 (当日受付にて名刺を頂戴します)

お問い合わせ並びにお申し込み先

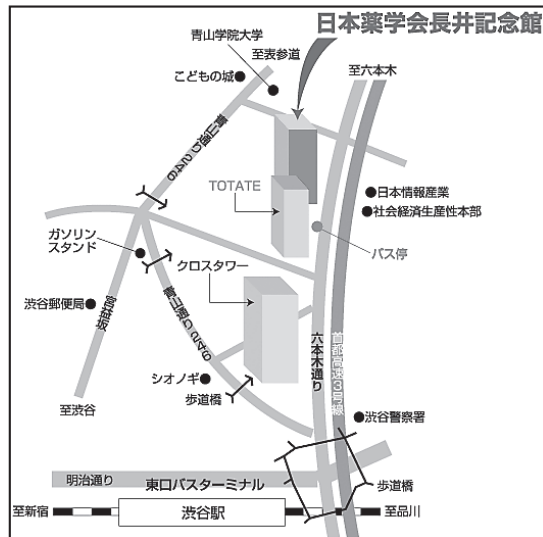
公益社団法人日本包装技術協会 医薬品包装セミナー係
 担当:竹内
 〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
 TEL. 03(3543)1189 FAX. 03(3543)8970
 e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「平成24年度医薬品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づき場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

会場案内図

- 会 場:(公社)日本薬学会 長井記念ホール
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15
 TEL. 03-3406-3326
- 交通手段
 JR山手線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、
 地下鉄銀座線・半蔵門線の渋谷駅下車
 JR渋谷駅東口より、高樹町方面へ高速道路3号線沿いに8分



平成24年度医薬品包装セミナー参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内 行 FAX.03(3543)8970 No.

会社名					
所在地	(〒)				
電 話			FAX		
参加者名	氏名	所属役職	e-mail		
	氏名	所属役職	e-mail		
	氏名	所属役職	e-mail		